

釜炒り茶生産に対応した省力的かつ安定的に香気発揚が可能な萎凋機

静置や攪拌などの操作を自動化することで、萎凋工程の香気発揚を安定化し、作業の省力化を実現する萎凋機

研究開発の背景

- 釜炒り茶生産地帯の一部で取り組まれている、香気発揚を目的とした萎凋処理を伴う茶の生産は、品質が安定しない上に攪拌を手作業で行うため重労働であるため、省力的かつ安定的に茶の香気発揚を可能とする萎凋用機械が求められている。

研究成果の内容

条件を多段階に制御可能なドラム型萎凋機を利用した省力・安定的な萎凋処理技術



ドラム寸法: 胴長3.0m × 直径1.2m



萎凋機内の茶葉状態を最適化

- 回分式で生葉換算50～80kg/回/台の萎凋処理が可能
- ドラムの回転時間、速度、間隔及び機内温度を多段階に制御
- 日干萎凋後の茶葉を、新型萎凋機に投入後、13～16時間処理
- 萎凋処理後に釜炒り茶用の製茶機械を用いて製茶

【参考情報】

・カワサキ機工株式会社から「ドラム式萎凋機」の名称で2015年から販売。

導入メリット

香気発揚を安定化

- ・安定した香気発揚を実現
- ・「みなみさやか」「べにふうき」などの高適性品種を用いることで新たな需要を創出

作業の省力化・人件費大幅削減

- ・室内萎凋（静置と攪拌作業）の大幅な省力化

1日（生葉50～80kg）の室内萎凋工程に係る時間及び人員

	萎凋時間	作業人員	人により作業を要する時間
従来（手作業）	13～16時間	2～3名	8時間
新型萎凋機	13～16時間	0名	0時間

中山間地茶業での高付加価値生産に貢献

- ・小規模生産に対応
- ・高付加価値化による高単価取引が期待



期待される効果

- ・多様な需要に対応出来る高付加価値茶生産拡大により中山間地茶業の活性化に貢献。
- ・労働力不足が懸念される中山間地茶業における儲かる茶種として経営改善に寄与。

開発機関: 宮崎県総合農業試験場、カワサキ機工株式会社、予算区分【県単独予算、攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業】

導入をオススメする対象
主に釜炒り茶生産地帯